

図書館だより



2020年

秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校・高等学校 図書館

図書館主催の読書コンテストを実施しています。いつも通り来館してくれる人もたくさんいますが、「久しぶりに来ました!」「初めて借ります!」という声も聞こえてきて、とても嬉しいです。コンテストは11月30日まで続きますので、「まだ行ってなかったな…」という人もぜひ図書館まで足を運んでくださいね。

新しい本が入りました

★印はリクエストにより購入した本です

- ★『跡を消す 特殊清掃専門会社デッドモーニング』前川ほまれ/ポプラ社
- ★『年鑑日本の広告写真 2020』日本広告写真家協会/玄光社
- ★『パットン対ロンメル 軍神の戦場』デニス・ショウオルター/原書房
- 『ミュージアムを知ろう』横山佐紀/ペリかん社
- 『不機嫌は罪である』齋藤孝/KADOKAWA
- 『想像のレッスン』鷺田清一/筑摩書房
- 『インスタ映えする戦国時代』スエヒロ/大和書房
- 『スマホを捨てたい子どもたち 野性に学ぶ「未知の時代」の生き方』山極寿一/ポプラ社
- 『競争社会の歩き方 自分の「強み」を見つけるには』大竹文雄/中央公論新社
- 『まんがでわかるぐっすり眠れる体の整え方』矢間あや・春原弥生/イースト・プレス
- 『脳のしくみ ゼロから脳のしくみがよくわかる!』ニュートンプレス
- 『ベクトル 使いこなせば数学ができる物理がわかる』ニュートンプレス
- 『きつおんガール うまく話せないけど、仕事してます。』小乃おの/合同出版
- 『オープンなしで激ウマツ!スイーツ 楽勝70品』you/KADOKAWA
- 『やっぱり、このゴミは収集できません ゴミ清掃員がやばい現場で考えたこと』滝沢秀一/白夜書房
- 『もっと咲かせる園芸「コツ」の科学 育てることがうれしくなる』上田善弘/講談社
- 『鉄道について話した。』市川紗椰/集英社
- 『満月珈琲店』桜田千尋・望月麻衣/KADOKAWA
- 『ゆめぎんこう』コンドウアキ/白泉社
- 『新型コロナ見えない恐怖が世界を変えた 写真リポート』クレヴィス
- 『星野ルネのワンダフル・ワールド・ワーズ! まんがアフリカ少年が見つけた世界のことわざ大集合』
星野ルネ/集英社
- 『Another 2001』綾辻行人/KADOKAWA
- 『461個のお弁当』丸山智/朝日新聞出版
- 『半沢直樹アルルカンと道化師』池井戸潤/講談社
- 『滅びの前のシャングリラ』凧良ゆう/中央公論新社
- 『たちどまって考える』ヤマザキマリ/中央公論新社



他にもたくさんの本が入りました。リクエストはいつでも受け付けています。



研究するってどういうこと？



先日のSDGsウィークでは、たくさんの方が図書館を利用してくれました。本やインターネットの情報をうまく活用して調べられていましたね。

情報を一緒に探す会話のなかで印象的だったのは、それぞれに調べたいことや知りたいことがあるということです。最初は漠然としていても、話を聞いていくうちに「本当は〇〇が知りたい。」「これを調べて将来□□になった時に生かしたい。」と秘めたる熱意を数多く教えてもらえて、とても嬉しい気持ちになりました。

調べるということは、人と競争したり張り合ったりすることではなく、純粋に自分の疑問を解決していくことの積み重ねなのだと思います。どうぞこれからも、わからないことを解決するために情報を探る姿勢を大切にしてください。そして図書館ではいつでもそのお手伝いをします。

今月は調べること、研究することについて書かれた本を紹介します。



ヘンな論文

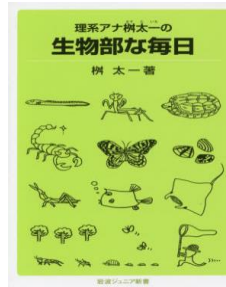
サンキュータツオ/KADOKAWA



論文＝難しいものというイメージを覆す、ちょっとおかしい論文の数々！純粋に疑問を解決しようという、力強い探究心を感じます。

理系アナ樹太一の生物部な毎日

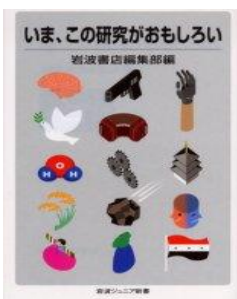
樹太一/岩波書店



アナウンサーとして活躍中の樹太一さんは、学生時代は研究ぶけの日々を送っていた！それなのに、なぜアナウンサー？今の仕事にも生きる研究に向き合う姿勢とは？

いま、この研究がおもしろい

岩波書店編集部/岩波書店



研究者、と呼ばれる人たちはどのような仕事をしているのでしょうか。様々な分野で活躍している人たちが、その魅力と社会にとっての意味を語ります。

「研究室」に行ってみた。

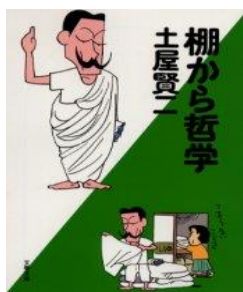
川端裕人/筑摩書房



これも研究の現場なのか！？砂漠のリアルムシキングから、宇宙輸送の巨大なアイデアまで。道を切り拓く人たちの熱きレポート。

棚から哲学

土屋賢二/文藝春秋



哲学者の土屋さん。論文だけでなく、エッセイも書き、ついたあだ名は笑う哲学者！研究者を身近に感じられるはず。笑いたい時におすすめです。

喜嶋先生の静かな世界

森博嗣/講談社



文字を読むことも勉強も大嫌いだった主人公。卒論の為に喜嶋研究室に配属されたことで大きく人生が変わっていく。研究することの純粋さに心を打たれます。